



失敗を通して学ぶ！

吉岡たすく先生が『やる気を育てる』という本の中で、次のように言っていました。

「人と同じでなくていいということを、まず頭に入れておいてほしい。花でたとえれば、梅も桃も桜も菊も、みんな花です。咲くのは同じ。しかし、時期がそれぞれ違います。桜は春に咲きますが、菊は秋にならないと咲きません。秋まで待てば、咲くのです。ところが隣の子が桜だもんだから、『あの子が咲いているのに、あなたはどのようにして咲けないの』とせきたてる。そして励ましという水もやらない。これでは菊は咲かずに枯れてしまう。」

隣の子どもが塾に行ったから、うちの子も塾に入れなければならない。ゲームを買っているから、買ってあげなければならない。そう考えがちになります。

また、子どもたちが失敗することを恐れ、先回りして失敗しないようにする。そんなことはないでしょうか。

このころの子どもたちはちょっとしたことで挫折してしまう傾向があります。それは、失敗するという経験が少ないからです。失敗することで、子どもだって成長するのです。

失敗させないようにと考えるのは非常にむずかしいことであるし、常にいっしょでなければ防ぎようがありません。

それよりも、失敗をしたとき、どのように子どもを見守り、さとし、どうしなければならないのかを導くのが、親であり、大人の役割ではないでしょうか。

「失敗は成功のもと」。これは、よく耳にすることわざです。子どもたちも口にします。何か失敗をすると、（ああすればよかったな。こうすればよかったな。）と反省して考えを改めます。すると、今度は失敗しないように考えて実行するので、成功するというわけです。

何か、失敗をしたときに、元気が出てくることわざでもあります。たとえば、「しくじるはけいこのため」や「わざわいを転じて福となす」です。「七転び八起き」もこの仲間に入るでしょう。

また、このようなことわざが外国にもあります。

「繰り返しはあらゆる教への母」（ロシア）。

「損害によって人は賢くなる」（ドイツ）。

「道に迷えば道をおぼえる」（タンザニア・ケニア）。

「馬に乗ることに通じているだけでは十分でない。正しく落ちることをも知らなければならぬ」（メキシコ）

これらの外国のことわざを見ても、外国でも同じなんだなと感心してしまいます。

子どもたちは、いろんな場面で、間違えて、失敗して、多くのことを身につけ、いろんなことができるようになっていきます。間違えるから覚える、失敗するから覚える、といっても過言ではありません。間違いを恐れていては、失敗を恐れていては、進歩は期待できません。

子どもたちが成長するためのポイントは、いかに多くの間違いや失敗を繰り返して、多くのことを学んでいくかということです。

そして、私たち大人が取り組むべきことは、子どもたちに安心感を与えるということです。

子どもたちが安心して失敗できる支え、安心して間違えることができる支え、そして、失敗後、また取り組むことができるという安心感を保障してやる必要があります。そうすれば、子どもたちは、大きく成長します。

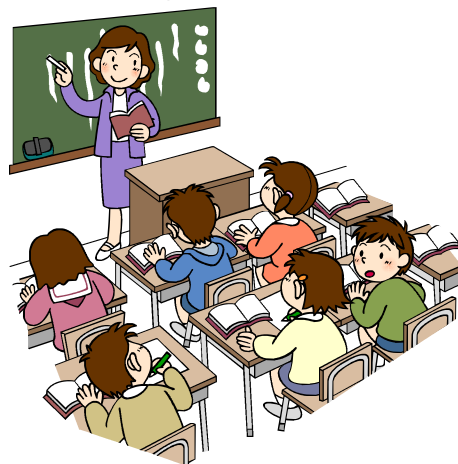


Photo News

フォトニュース

楽しかった修学旅行



鼻の穴くぐり

小学校時代の思い出は、何と言っても6年生の修学旅行でしょう。今年も、13・14日と明日香と奈良を訪ねました。両日とも天候に恵まれ、友だちと一緒に数々の思い出をつくることができました。



明日香村をサイクリング



明日香村をサイクリングしたり、奈良公園をウォークラリーしたりしたこと。友だちと買い物をしたり、共に過ごした旅館での夜のこと。本当に楽しい二日間でした。



何を土産にしようかな？



